

高美小学校内 TM だより

R7.6.25. NO.13

6年2組の算数の授業におじゃましました。

★ふきだしを使って思考を整理★

新しい单元「場合を順序よく整理して」の学習がスタートしたところでした。まずはいつも通りふきだしから。いきなり書かせるのではなく、問題の内容を全員で確認してから、書く時間となりました。校内授業研を経て、ふきだしを書く時のポイントがバージョンアップされていました。「聞かれていること」から「ひらめいたこと」まで、考えが深まっていくように並べられています。子どもたちが書いている間、森先生は机間指導をしながら、鉛筆が止まっている子に対しては「聞かれていること」から書くように声掛けをされていました。

★ふきだし交流→めあて★

全体で交流する際にも、やはり「聞かれていること・わからないこと」から発表させ、「ひらめいたこと」につながるように整理しながら板書されていました。途中で子どもたちの挙手が止まる場面があっても、よい気づきをしていた子を机間指導の間に見つけておき発表させることで、全体で考えを深めておられました。めあてをたてる際には、一人の発言だけを取り上げるのではなく、「もっといい言い方ないかな？」と子どもたちに問い直ししながら、一緒につくっておられました。

★自力解決→全体交流★

めあてをたてた時点で見通しをもつことができていた子はすぐに手を動かし始めました。しばらく悩んでいた子に対してはロイロノートでヒントカードを送り、活用するよう声掛けされていました。ヒントカードはそのまま直接書き込むことができるように工夫されていました。考えの交流もロイロノートで行っておられました。ここでも、子どもたちの挙手に関わらず、本時でおさえるべきポイントに気づいている子の意見については先生の方から声をかけ、発表を促すことで全体の学びにつなげておられました。

～まとめ～

ふきだしを使うことで、子どもたちの学びに対する意欲は上がっているように感じました。いきなり答えを求めるのではなく、そのもっと前の段階から書くことで、子どもたちの頭の中でも考えが整理されていったのではないのでしょうか。また、板書の中でもふきだしとふきだしをつなぐことで整理されていたため、どの子にとってもわかりやすくなっていたのではと感じました。全体交流の場面では、本時で身につけさせたいポイントを教師側がもっていたからこそ、机間指導をしながら取り上げたい児童の考えを見取り、指導に活かすことができたのだと思います。どこまで子どもたちに委ね、どの場面で教師が前に出るか、改めて考える機会となりました。森先生、6年2組のみなさん、ありがとうございました。

